

Economic Indicators

発表日: 2024年6月28日(金)

鉱工業生産(2024年5月)

~2か月ぶりの上昇も、先行きの回復ペースは鈍い~

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産						資本財(除く輸送機械)		消費財			
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷			
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比		
23年	1月	▲3.6	▲3.0	▲2.8	▲3.1	▲0.3	2.5	2.1	9.9	▲9.5	▲5.5	▲1.8	0.8
	2月	3.4	▲0.5	3.9	0.7	0.6	1.5	▲1.2	6.0	6.2	2.4	4.4	4.3
	3月	0.4	▲0.8	0.5	0.1	0.2	2.2	0.9	8.6	▲0.7	0.2	0.6	5.8
	4月	0.3	▲0.8	▲0.5	▲1.4	1.3	6.0	1.4	12.7	▲0.8	▲3.4	0.4	4.1
	5月	▲1.0	4.1	▲0.3	3.8	0.6	7.2	1.0	8.8	1.2	2.8	1.1	9.9
	6月	0.9	▲0.1	0.8	0.7	0.0	5.7	▲0.6	9.8	▲0.7	▲1.3	▲1.0	5.1
	7月	▲1.4	▲2.6	▲1.3	▲2.0	0.2	5.5	0.8	9.8	▲2.9	▲10.9	▲0.4	3.4
	8月	▲0.4	▲4.7	▲0.2	▲3.1	▲1.1	3.0	▲0.5	9.2	0.3	▲14.3	▲1.1	1.7
	9月	0.1	▲4.5	0.6	▲2.4	▲0.9	0.0	▲1.2	4.3	▲1.3	▲13.2	1.4	2.4
	10月	1.2	0.9	0.3	0.8	0.0	0.8	▲0.2	4.1	1.0	▲6.8	1.4	7.2
	11月	▲0.6	▲1.6	▲0.8	▲1.7	0.0	0.9	1.5	6.3	▲2.0	▲8.5	▲1.3	3.0
	12月	1.2	▲1.1	1.6	0.2	▲0.9	▲0.5	▲2.3	2.3	6.0	▲2.9	▲0.1	1.0
24年	1月	▲6.7	▲1.5	▲7.5	▲1.7	▲1.7	▲1.8	2.6	0.8	▲4.9	2.7	▲5.2	1.3
	2月	▲0.6	▲3.9	▲0.7	▲4.7	0.6	▲1.7	▲5.6	1.9	▲4.1	▲5.1	▲1.9	▲2.5
	3月	4.4	▲6.2	4.7	▲6.8	1.0	▲1.0	7.6	6.8	7.9	▲4.2	4.1	▲6.0
	4月	▲0.9	▲1.8	▲0.4	▲1.4	▲0.2	▲2.4	▲0.7	0.5	▲0.1	3.1	▲0.9	▲1.3
	5月	2.8	0.3	3.5	0.9	1.1	▲1.9	▲0.9	▲1.2	0.9	▲0.6	6.6	1.0
	6月	▲4.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7月	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

(注)24年6月、7月は、製造工業生産予測調査の数値

○鉱工業生産は2か月ぶりの上昇

経済産業省から公表された24年5月の鉱工業生産は前月比+2.8%となり、事前の市場予想(前月比+2.0%、筆者予想:同+2.5%)を上回る結果となった。工場稼働再開を受けて自動車工業を中心に持ち直しが続いたことで、2か月ぶりの上昇となった。

今月の上昇の主要因は、自動車工業の上昇(前月比+18.1%、前月比寄与+2.24%pt)であり、鉱工業生産全体の上昇のほとんどを説明する。自動車工業は、一部自動車メーカーによる品質認証問題を巡り1月、2月に大きく落ち込み、その後は段階的な工場稼働により持ち直しの動きが続いている。もっとも、先行きの回復ペースは鈍い。同時に公表された生産予測指数によると、自動車工業含む輸送用機械は6月には再び前月比▲6.4%の低下が見込まれ、7月は同+0.1%と横ばいの動きに留まる見込みである。仮に、6月が生産予測指数通りとすれば、4-6月期の輸送用機械は前期比+7.4%となるが、1-3月期の落ち込み(前期比▲12.7%)を取り戻すに至らず、水準は低迷したままだ。6月頭には一部メーカーで新たな品質認証問題が発覚したことにより、回復の重荷になることが見込まれる。6月以降も下振れリスクに注意が必要だろう。

自動車以外の業種では、上昇寄与の大きかった業種としては、電気・情報通信機械(前月比+5.1%、前月比寄与+0.42%pt)等が挙げられる。自動車用電気照明器具などの自動車関連品目が目立った。

また、世界的なハイテク需要の回復でこのところ持ち直し傾向にある電子・デバイス(前月比+

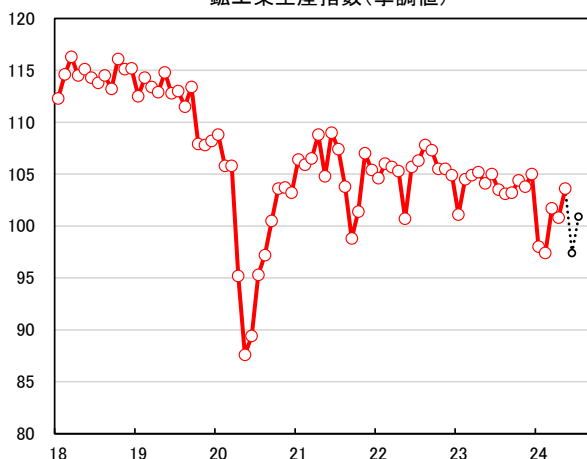


2.3%、前月比寄与度+0.14%pt)も、今月は上昇が続いた。生産予測指数によると6月には前月比▲2.8%と一旦低下した後、7月は同+7.0%の上昇が見込まれており、電子・デバイスが堅調だ。先行きも世界的なハイテク需要の回復は今後も続く予想されることから、均せば緩やかな持ち直しが期待できるだろう。

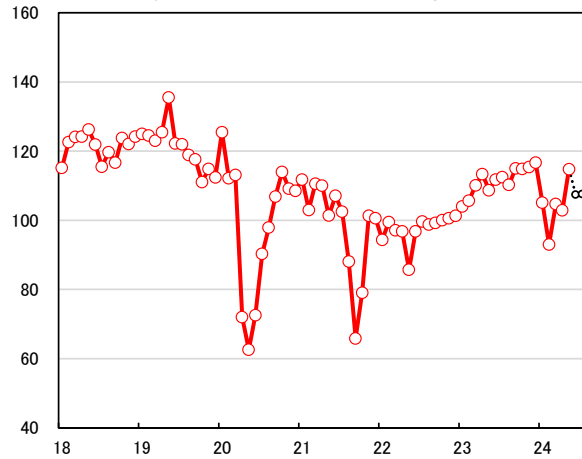
○自動車の持ち直しペースは不透明

同時に公表された製造工業予測指数は、6月が前月比▲4.8%、7月が同+3.6%となった。もっとも、予測指数には上振れバイアスがあるため、このバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値で見ると、6月は同▲6.0%の低下が見込まれる。仮に6月が経産省試算値どおりとして先延ばしすると、4-6月期は前期比+1.6%となり、1-3月期の大幅低下(同▲5.1%)の戻りとしては物足りない結果に終わる可能性が高い。上述の通り、自動車工業が問題発覚前の生産水準に戻るには時間がかかるとみられることに加えて、海外経済の減速で財輸出も弱い基調が続いていることから、自動車工業以外にも下押し圧力は強い。当面の鉱工業生産は下振れリスクの大きい状況が続きそうだ。

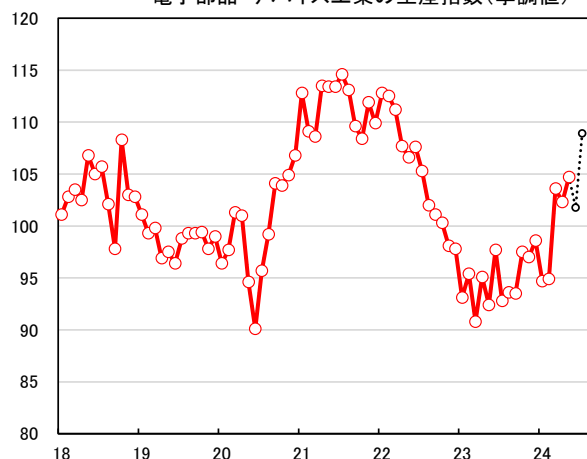
(20年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



(20年=100) 輸送用機械工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(出所)経済産業省「鉱工業指数」(注)黒波線部分(24年6月、7月)は、製造工業生産予測調査の数値で先延ばしたものの。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。